

## 第4次帯広市食育推進計画策定に関する意見交換会要旨

日 時 令和4年11月30日(水) 10時10分～11時55分

場 所 市庁舎10階第6会議室

参加者 食育推進サポーター 11団体・個人 計13名

### <意見交換>

冊子の原案に沿って意見交換を実施。

#### P7～P15 市民、小中学生を対象として昨年実施したアンケート調査結果について

○具体的に広めていく方法を考えていかなければならない。アンケートをとって終わりではなく、結果について協議することを重視した方が良いのではないか。アンケート結果を今後に活かしていくのは漠然として難しいため、小さな声でも個々の生の声、悩みなどを丁寧に拾い上げていくことが大事。

#### P16 食育をめぐる現状と課題について

○愛国小学校で食農教育をしており、全日本司厨士協会帯広支部の方が来て学校農園で作られた農産物を使って給食を作る取組を行っている。子どもたちの食への関心が高められる非常に良い取組であるので、市で予算を措置し、市内全校で展開してほしい。

#### P17～P20 計画の基本的な考え方として、目指す姿、基本方針、施策の体系、食育推進にあたっての指標について

○乳製品アレルギーを持つ児童が10%程度いることから、目標値を95%にするには無理があるのではないか。カルシウム摂取を促す目的であれば、大豆製品を加えても良いのではないか。

○1食でもバランスが取れているという考え方や、3食は摂り過ぎといった考え方もある。3食とらないといけないという明確な理由が必要。朝食の欠食についてしっかり取り組むのであれば、統一した考え方を整理できれば食育授業で児童に伝えることができると思う。

○これまでは何をどれだけ食べるかということに重点を置いた教育だったと思うが、何をどれだけ食べるかに加えて、いつ食べるべきかといったことなどの視点で教育を行えば良いと思う。

○世界の食の脆弱性が明らかになっているというテレビ番組で、豊かさの象徴としての食から生きる土台としての食への意識の転換が必要というコメントがあった。目指す姿は文字通り、豊かさの象徴としての食というイメージがあるが、生きる土台としての食への認識の転換ということがこの計画にも求められているのではないかと感じている。

## P21～P25 家庭における食育の推進について

○朝食を欠食すると 1 回の食事量が増えて食べすぎになることを肥満や食生活習慣病の発症に繋げると、食べ過ぎなければ良いと解釈してしまう。朝食欠食による肥満や生活習慣病の発症は、食べる量よりも朝食を欠食すると次の食事で溜め込むという体のメカニズムにより、そういう体質になり、新陳代謝が落ちることによるもの。食べなければ良いと解釈できる内容では正しく推進できないのではないか。

○朝食の欠食が増えている現状で、「朝ご飯を食べよう」というコラムの 3 番目の定食スタイルのイラストを示してしまうと、かなりハードルが高く感じてしまう。大切なのは炭水化物と大豆製品、乳製品を組み合わせることなので、これならできると思える内容であれば市民も目を通そうと思えるのではないか。

○十勝は食の宝庫であるため、帯広に食育の先頭を切ってほしい。例えば「食育交流館」という、お年寄りから子ども、お母さんなどいろいろな世代間の人交流できる場を作って、話し合いや料理を作るようなことができると良い。交流館には専属の職員を配置して、大きなキッチンで、災害時にも使えるようにしてほしい。

○食育を家庭で行う際の制限要因として、時間の使い方と金銭的なものがあると感じている。計画に掲げる取組内容がお母さん向けのように感じる。もっと男性が参加できるような取組があっても良いのではないか。

○久しぶりに料理教室を開催したが、参加者は料理上手だと感じながら見ていた。募集をかければ男性も来ると思うため、もう少し回数を増やせば良いと感じた。

## P26～P33 学校、保育所等における食育の推進について

○声がかかれればいくらかでも協力したいという思いはあるが、学校側に食育推進サポーターが直接話をするのも難しく、学校との橋渡しは行政に頼らざるを得ないことの歯がゆさを感じている。

○食育のメインターゲットは小学生、幼稚園児になっているが、本来伝えなくてはならないのは、中学生、高校生だと思う。中高生に対して食の大切さを伝えないと、20代30代までに忘れてしまう。家庭だけでやるのは難しい部分もあるため、しっかり行政と民間が協力し、学校教育の中に溶け込めるような環境作りをしっかりとやっていただきたい。

○食育に関心のある先生がいる学校（クラス）でしか食育の授業ができていないように感じる。その先生が転勤すると転勤先の学校（クラス）でしか行われない。個々の教員任せでなく、学校でカリキュラムを組んでくれればと思うことがある。

○サポーターの取組の一覧のような資料を学校に配ったりはできないのか。その中で興味があるものを選ぶようなことができれば良いと思う。学校現場が知らないのはもったいない。

○食育について、帯広市内の全ての学校で取り組むのはとても良いことだと思うが、学校や担当教員によって温度差があるのではないかと。食育推進条例ができるのであれば、もう一歩踏み込んで足並みを揃えて推進していくことが可能と考える。

**P34～P40 地域における食育の推進について**

**P41～P44 横断的な食育の推進について**

○食育推進の体系図があるが、中心に行政を置き、行政が中心になってやるべき。食育推進委員会が進捗管理をしていくと明記されているが、この委員会がどれほどの権限と予算を持つかがカギになると思う。

○食育に関する窓口はバラバラなので、ワンストップ対応ができる「食育の窓口」をぜひ設置していただきたい。

○食育推進サポーターとして行った授業の取組はどこにも紹介されていないように感じる。この授業で誰が何をやってくれたというのが広く周知されると良い。

**P45～P47 計画の推進体制・進捗管理について**

**その他意見**

○進捗管理を担当する「食育推進官」みたいな職を作って、統制を取りながら進めるのはどうか。

○OP46の図で「民間」と「ボランティア」が一緒になっているが一緒にしてしまうと民間もボランティアでやらなきゃいけないのかという話になる。全てが無償では機能しないと思う。

○学校での授業は材料費や交通費はいただいているが、授業を行うための資料作成は無償でやっている。取組による企業イメージアップを事業者としては期待しているが、その点について市のアピールが不足していると感じる。市にうまく周知してもらえるのであれば、会社としても宣伝広告の大義名分をうたって動ける。

○予算のところで条例案（17）で財政上の措置を講ずると記載があるが、条例ができると予算（措置）について変わってくるのか。